

とまこまい びじゅつかん
苦小牧の美術館の
みりよく つた
魅力を伝える

びとごま

第1号
2012年11月号



とまこまいしほくぶつかん ちか たらべや
苦小牧市博物館の地下に、お宝 部屋が
あるのを知っていますか？そこには、教育
や研究のために集められたものや、市民か
ら寄贈（※1）された美術品などが大切に保管
されています。収蔵庫と呼ばれる、その部屋は第一
収蔵庫、第二収蔵庫、第三収蔵庫に分かれていて、それ
ぞれ保管している物が違います。第一収蔵庫には昔の道具が
ひとつひとつ丁寧に置いてあります。昔のテレビやミシンなど日常
のものから、珍しい木鉢、下駄スケート靴、炭アイロンなど、全部で
約五万点あります。第二収蔵庫には、動物のはく製や化石などが約四万
点あります。はく製とは、死んだ動物の内臓や肉を取り除いて、かわりに綿を
つめ、生きている姿とそっくりにしたものです。とても薬くさく、よるうごだ
でもたくさんの種類があり、びっくりしました。第三の収蔵庫には絵画があります。来年できる美術館に飾
る絵もあります。この部屋は、ほかの収蔵庫と違って、扉が二重になっていて、靴もぬいでからでなくては



地下倉庫を探検？！

はい かいが
入れません。絵画はとてもデリケートで、すごく厳重に
あつかっているのだなあとお思いました。かいが せんてん
あり、それぞれが作者と作品名と番号の
書かれた箱に入っていました。箱に
入っているので、作品を見ること
はできませんが、タイトルだ
けでも興味深く感じました。
ちか しゅうぞうこ ぜんぶあ
地下収蔵庫には全部合
せて十四万点も保管
されています。

※1 寄贈：市民が自分の持つて
いる品物を、あるいは美術家自身が
自分の作品を「教育や研究に役立てて
ほしい」と博物館や美術館などに贈ること。



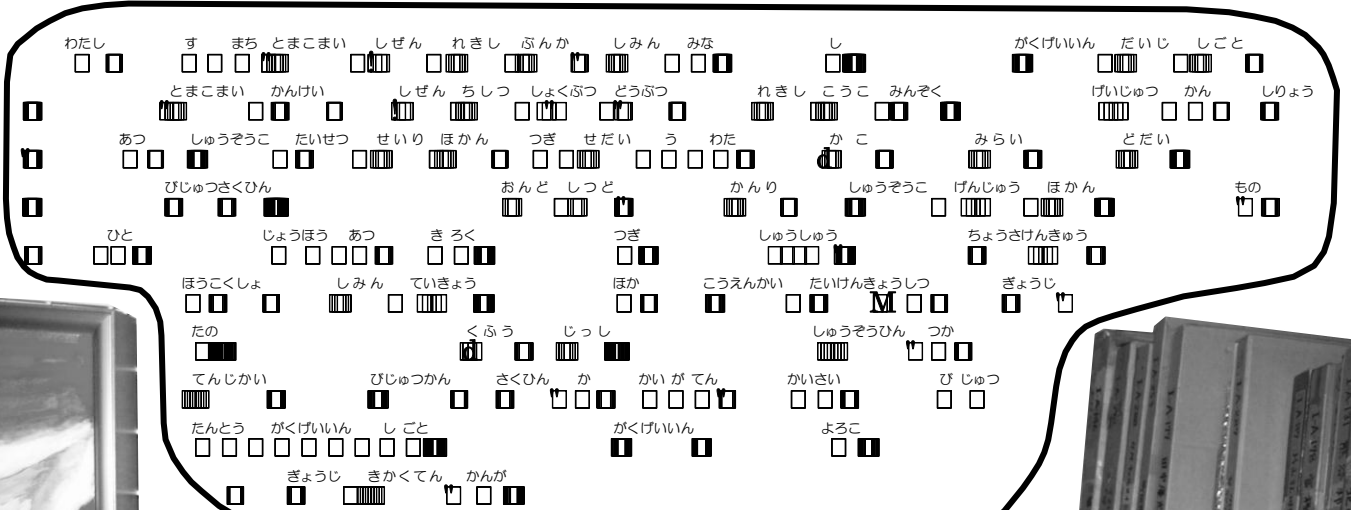
がくげいいん 学芸員って しごと どんなお仕事してるの？

2012年9月29日、苫小牧市博物館で美術担当の学芸員をしている三村さんと細矢さん、坂井さんの3人に学芸員の仕事についてお話を聞きました。

博物館は、苫小牧市美術博物館（仮称※1）に生まれ変わるため、現在工事中で閉まっています。でも学芸員の仕事は休みではありません。来年の開館に向け、展覧会を6つくらい考えています。みんなが楽しめるように、と考えています。寄贈される絵の管理し、こういった品物なのか調査・研究したり、市民に見もらう機会をつくることも、学芸員の仕事です。

たくさんある作品を写真で見てもらえるようにするため、デジタルミュージアムの準備も進めています。完成すれば、作品と作者の名前などの情報を館内の大型モニターで見ることができるようになります。

また、ふだんの博物館の事業については、工事の間、別の場所を借りて続けています。博物館大学講座はアイビープラザ、土曜体験教室と博物館クラブはサンガーデン研修室が会場です。こういった講座の内容を考えることも学芸員の仕事です。さらに、出前講座や自然観察会、移動美術展など、博物館の外での取り組みもあります。苫小牧市博物館には7人の学芸員がいて、それぞれに担当を分けて仕事をしています。



みむら がくげいいん
三村学芸員より





アーティストに会いに行こう!

たるまえア-ティ ほうもん
樽前artyアトリエ訪問

たるまえア-ティ とまこまい かつやく
樽前artyは苦小牧で活躍するアーティスト
が集まって 2004年に結成されました。現在
は、鉄や木を使った立体作品や家具、看板
などを作る藤沢レオさん、小説を書いている
千葉和魂さん、グラフィックデザイナーの
堀米和克さんの三人で活動しています。



2012年9月1日、樽前にある工房レオを訪ね、樽前
artyを取材しました。樽前は細長い苦小牧の西の端です。
樽前に近づくと、だんだん建物の数が少なくなって、緑
の匂いがしました。「この道であっているのかなあ」と思
っていたら、『樽前arty』の看板を見つけ、赤い屋根の
建物にたどり着きました。すごく植物が育っていて、と
ても静かなところ。そこはもともとは牛舎で、たく
さんの人に手伝ってもらって今のアトリエになったそう
です。景色がきれいなこと、藤沢さんが子どもの頃、樽
前小学校に通っていたことから、樽前で活動していま
す。ア-ティとは「芸術家気取り」という意味です。三人
は違うジャンルで仕事をしているので、一緒に展覧会な
どをすると、アイデアが広がってとても楽しいし、いろ
んな意見が出てバランスもいいそうです。子どもの頃から
工作が好きで、その好きな工作のようなことを仕事にで
きて楽しいという藤沢さんの

作品は、触ってみると、柔らかいものと硬いものがあり、
鉄で作られたものは重かったです。影も作品の一部
になっているところが面白い作品もあります。自分の
作品を見た人が笑顔になってくれるのがうれしいとい
う堀米さんには、見れば見るほど不思議な気持ちになる
イラスト作品を見せてもらいました。下書きなしにボール
ペンだけで、あんなに細かく書き上げるなんてすごい
と思いました。

藤沢さんに教えてもらって、私たちも鉄の作品づ
くり挑戦しました。直径8mmの太さの鉄の棒
を熱してハンマーで叩いてペチャンコにして、もう
一度熱してひねると、ねじれた形ができます。これ
をカットしてキーホルダーにしました。鉄は、熱すると
赤く柔らかくなり、冷えると硬くなりました。「鉄
の変わる様子が面白かった」と亀井記者、浜記者は
「火花が怖い」と感じました。

